

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p><1年>【話す能力】</p> <p>○考えをもっている、相手意識をもっているとしたら分かりやすく伝えられるかを意識して話すことが難しい生徒が多い。その結果、発表が交流で考えを深め合うことまで至らなかった場面があった。</p> <p><2年>【学力差】</p> <p>○休業中の課題への取組を含め、[読む][言語に関する知識・理解]に関して、ますます学力差が広がった。基礎・基本の定着が図れていない生徒は、授業への集中が継続できず、また自学習が難しい傾向にある。</p> <p><3年>【言語についての知識・理解・技能、書く能力】</p> <p>○学習への関心・意欲・態度は高い。言語についての知識として、漢字学習にも意欲的だが、長期的な記憶としての定着には個人差がある。小論文のように自分の意見を持ち筋道を立てて書くことに関しても、自分の意見をまとめる作業や、文章構成を考える際の個人差が大きい。</p>	<p><1年>【話す能力】</p> <p>○話す順番に留意させる指導をする。</p> <p>○相手意識を持たせ、聞き手がわかるように話すように指導する。</p> <p>○声の大きさなども留意させる。</p> <p><2年>【学力差】</p> <p>○基礎・基本の定着を図るため、基本事項については、既習事項も繰り返し授業で扱うようにする。授業外でも読解力をつけるため、教科として課題図書の設定、読破を指導・推奨する。また、授業中においても、個別指導できるものについては積極的に対応していく。</p> <p><3年>【言語についての知識・理解・技能、書く能力】</p> <p>○形の似ている漢字などは特に、意味と関連させて使い分けられるように指導する。</p> <p>書くことに関しては、自分の意見とその根拠を関連付けて書く機会を増やす。実際に書いた作品を通して個別指導を行う。また、文章の読み取りの際にも、文章構成の型を意識させ、書く力につなげる。</p>	
社会	<p><1年>【技能、思考判断表現力の育成】</p> <p>○定期考査の結果を見ると、技能の観点が他の観点より約4ポイント低かった。資料は何を表し、そこからどのような情報を取捨選択しなければならないのか。そして、読み取ったことをまとめることも苦手としていることがわかった。</p> <p><2年>【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>○定期考査の結果を見ると、各観点の達成率の平均が思考力・判断力・表現力は52%であり、他の観点（知識・理解56%、技能57%）に比べて低かった。1学期のまとめプリントでも、単元の振り返りのまとめが苦手な生徒が多く見られた。</p> <p><3年>【技能表現力・思考判断力の育成】</p> <p>○定期考査を分析すると、平均正答率が62%と知識・理解力の問題正答率より12パーセントも低い。約4割の生徒が苦手としていることを重く受け止めたい。</p>	<p><1年>【技能、思考判断表現力の育成】</p> <p>○資料は、何を表しているのか全体で共通認識をし、そこからどのような情報が必要なのかグループ活動をして、情報の捉え方を互いに学習する。そして読み取った情報をワークシートに記入する。一連の読み取ったことを整理し、意見をまとめて、記述するといった練習を行う。</p> <p><2年>【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>○ワークシートで「考えよう」という問いを作成し、記述の時間を設ける。記述を行う際に、社会的な見方・考え方が働かせやすいよう、時間（時代）や空間などのヒントを提示する。また、授業のまとめの時間を設け、学習したことを振り返り、考え、まとめる練習を行う。</p> <p><3年>【技能表現力・思考判断力の育成】</p> <p>○資料を活用し表現する力や思考判断力を育成していくためには、その背景に着目する必要がある。「何故、そうなったのか。」について、ワークシートに自分の考えを書かせたり、グループ活動の中で推理する力を今後も養っていく。</p>	

<p>数学</p>	<p><1年>【見方や考え方】 ○習熟度別少人数授業を展開するようになり、それぞれの習熟に応じて授業ができ、生徒も満足しているように思われる。授業内容をしている生徒も多いが、1年生の中には、ただ計算ができればいい、と思っている生徒がいる。「なぜ、そうなるのか?」「どうしてそのように考えるのか?」を大切に、自分でその説明できる生徒を増やしていきたい。そのために、授業の中で「考える時間」を設定していく。</p> <p><2年>【見方や考え方】 ○定期考査の平均得点は63.7点、平均到達度は、見方や考え方52.9%、技能62.1%、知識・理解76.5%である。見方や考え方が低い理由として、応用し、既習事項を組み合わせることで解く問題を苦手とする生徒が多いことがあげられる。また、問題文を読み取ることができない生徒がおり、すぐに諦めてしまう生徒も見られる。</p> <p><3年>【知識・理解】【見方・考え方】 ○学習に対しての関心・意欲・態度は高い。課題としては、習熟度別で小人数指導を行っているが、授業で教わったことがすぐに定着する生徒と、なかなか定着しない生徒の差が激しいことである。また、習ったことを応用させて解くことが苦手な生徒が多い。そのためにも、教員がそれぞれのクラスにあった授業内容を展開すると同時に、生徒の能力をきちんと把握して授業展開をしていくことが重要である。</p>	<p><1年>【見方や考え方】 ○ただ計算の仕組みを教えるのではなく、どうしてそのように考えるのか?また、そのように考えることがなぜ必要なのか?という数学の本質を伝えていくことが必要になる。そのために、教員もしっかり勉強しておくことが大切である。生徒たちが数学を勉強するといいいことがあるな、と思えるようになれば、興味関心をもって授業などに取り組むようになると考える。</p> <p><2年>【見方や考え方】 ○問題を解く際に既習事項の確認を行い、どのような手立てで課題解決に向かうのか、筋道を考えさせる指導、あきらめずに取り組ませる指導が必要である。その問題と既習事項とのつながりを示し、考え方のポイントを指導する。</p> <p><3年>【知識・理解】【見方・考え方】 ○基礎・基本の定着を図るために、演習の時間を多めに設定する。また、授業がつながるように意識し、前時に習った内容を本時に生かせるような授業展開を行っていく。 さらに、個々の能力を把握するためにも机間巡視を行い、個別対応も行っていきたい。</p>	
<p>理科</p>	<p><1年>【関心】 ○理科に苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、学習の取り組み方を考慮する必要がある。 ○生徒間で能力的な差が顕著にみられる。1つのクラスで指導をしていく中で、どうやって学習の力を引き上げていくかが課題である。</p> <p><2年>【思考力・判断力】 ○実験や理科の現象に対しての関心は高い。しかし、その現象がどのような時に使われたり、自然現象への応用に結び付けることが難しい子が多い。授業で習ったことへの応用が今後の課題である。</p> <p><3年>【関心】【思考力・判断力】 ○基礎的な学習内容が定着している生徒と、していない生徒に分かれている。また定着していない生徒ほど意欲が低い傾向がある。基礎となる土台をしっかりと身につけることと、生徒に意欲をもって学習に取り組ませることが今後の課題である。</p>	<p><1年>【関心】 ○身近な現象や生物の状態などを紹介しつつ、ICTを利用し、可能な限り映像や実物を見せることで関心をもたせる。 ○基本的には学習に課題が見られる生徒たちを対象に授業を進めていく。学習課題が終わっている生徒に対しては、各自で課題を見つけて取り組むことで評価できるシステムをつくる。</p> <p><2年>【思考力・判断力】 ○実際の現象を実験や動画などで見た際に、授業で習ったどの知識が使われているかなど、常日頃から考える習慣を授業内でもうけることが必要だと考える。</p> <p><3年>【関心】【思考力・判断力】 ○ワークシート等による問題演習に取り組みさせる。基礎的な内容が十分でない生徒へは個別に対応をしていく。 学習内容と自らの生活にかかわる現代の科学技術や科学的課題を結び付けて考察していくことにより、意欲を高められるようにしていく。</p>	

音楽	<p><1年>【基礎的な音楽の力の定着】 ○基礎的な音楽の力(読譜力、発声の仕方、音楽文化についての知識等)の定着度に個人差がある。</p> <p><2年>【主体的な学習活動】 ○よく話を聞いて授業を受けている。だが、やや受け身的な面が見られるため、主体的に音楽活動に取り組もうとする意識を高めたい。</p> <p><3年>【音楽の特徴と曲想のかかわり】 ○自分が音楽を味わい感じたことを、音楽の特徴と結び付けてとらえる力を高め、表現や鑑賞の活動をより深いものにしていきたい。</p>	<p><1年>【基礎的な音楽の力の定着】 ○基礎基本の定着を目指し、反復学習、スモールステップの学習を多く取り入れる。 ○生徒同士の教え合い、学び合いを授業内に取り入れ、理解したことのさらなる定着を目指す。</p> <p><2年>【主体的な学習活動】 ○少人数グループで生徒主体に活動し、お互いに高め合う場面を、授業の中に取り入れる。 ○相互評価や自己評価の場面を設定し、自分たちで課題を意識し改善しようとする意識を高める。</p> <p><3年>【音楽の特徴と曲想のかかわり】 ○音楽の特徴を捉えるための支えとなる、リズム、旋律、音色…などの「音楽を形づくっている要素」を常に意識できるよう、1年を通して同じ「要素カード」を用いて授業を行う。 ○音楽から感じたことを深めるために、感じたことの生徒同士の交流の場面を、様々な方法(発表、プリント交換、少人数での話し合い等)で設定する。</p>	
美術	<p><1年>【創造的な技能】 ○知識・理解をベースにして技能の向上をはかるということが理解しきれていない生徒がまだ多い。</p> <p><2年>【発想・構想の能力】 ○説明をよく聞いて技能をみがいたり、作品の完成度を高めたりできる生徒が多いが、工夫を凝らして自分らしいアイデアを出すところでつまずきのある生徒も多い。</p> <p><3年>【発想・構想の能力】 ○感覚的な表現のみで、思考を深めてアイデアをブラッシュアップしていくことが苦手な生徒が多い。これまでインプットした情報や知識、経験などをどのようにアウトプットしていけばいいかわからない生徒が多い。</p>	<p><1年>【創造的な技能】 ○制作を進めていく中で、この知識がこの技法の実践に役立つ、というような関連付けを丁寧に説明し、技能の向上は知識や練習の積み重ねによるものだということを理解できるようにしていく。</p> <p><2年>【発想・構想の能力】 ○新しくアイデアを生み出すときにベースがゼロの状態からでは難しいことや、他の作品や情報、知識を事前にインプットすることで自身がアウトプットできる引き出しが増えてベースが形づくられていくことを、作例などを見せながら説明し、改めて創作活動のプロセスを理解できるようにする。</p> <p><3年>【発想・構想の能力】 ○制作の初期段階の作業として考えを言語化・文章化して整理していくことが有効だと伝え、作例などを提示しながら作者の制作プロセスや意図・ねらいなどを解説することでアイデアを精査してブラッシュアップしていけるようサポートする。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保健体育</p>	<p><1年>【思考・判断】 ○関心・意欲は高い。ただ、生徒が自分で行っている技能がイメージと実際の動きとリンクしていないことが多い。合理的な動き方を身につけさせるポイントを意識して行わせる必要がある。</p> <p><2年>【生徒間の関わり】【思考・判断】 ○関心・意欲は高い。話し合いやペア学習も適宜進められているが、できる生徒が積極的に教え、できなくとも積極的に学ぼうとする技能差を越えた主体的な関わりが少なくないと感じる。</p> <p><3年>【思考・判断、技能】 ○関心・意欲は高く、真面目に取り組む生徒が多い。一方で昨年度までの取組から種目や技能によって「できない」と決めつけている生徒もいる。また、実際の動きとイメージがリンクしていない生徒もいる。</p>	<p><1年>【思考・判断】 ○録画した映像などを見せて、合理的な動きをしている技能と、そうでない映像を比較し、生徒自身が課題を見つけやすいようにする。</p> <p>○見つけた課題を克服するために、少人数で教え合う場を設け、お互いにポイントを意識しながら課題克服を図る。</p> <p><2年>【生徒間の関わり】【思考・判断】 ○ペア学習やグループ活動の構成を必要に応じて変える。共通の課題を複数人で検討、互いの到達度の確認を通して多くの生徒が「わかる」から「できる」という知識と技能の一体化を目指す。その際、技能の解説の工夫や、技能に応じた話し合い・観察のポイントを明確に示すようにする。</p> <p><3年>【思考・判断、技能】 ○各種目基礎的な練習から発展的な練習まで段階的な練習方法を用意し、自分に合った練習をさせる。また、同じ程度の到達度のグループと、到達度に差があるグループの2パターンのグループ活動で、「教え合い」「考え話し合う」機会を設ける。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">技術家庭</p>	<p><1年>【主体的対話的技術の見方考え方】 ○授業に意欲的に取り組む生徒がいる一方で、実生活の中で「知識・技術」を結びつけて考えることができる生徒は少ない。</p> <p><2年>【知識・技能の定着と活用】 ○これまで習得した知識と技術を連動させ、製作に取り組む生徒が多い。</p> <p><3年>【技術の見方考え方】 ○授業内容に意欲的に取り組み、発問に対する反応がよい。既習事項が定着しないため、実践的な取り組みを繰り返し学習することによって、生活実践力を習得させる。</p>	<p><1年>【主体的対話的技術の見方考え方】 ○生活経験を振り返らせながら、言語化させることによって、「知識・技術」を定着させる。ICTを活用しながら生活実践力を習得させる。</p> <p><2年>【知識・技能の定着と活用】 ○初めてのことに躊躇する生徒が多いので、作業工程を黒板・ICT・ワークシートなどで丁寧に説明し意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p><3年>【技術の見方考え方】 ○意図的継続的に学習し、評価することで学習した内容が実生活と関連付けることができているか振り返らせ、改善点があれば習得した知識理解をもって解決できるように取り組ませる。</p>	

<1年> 【表現の力（話す・書く）】

○音読練習や本文の暗唱などに意欲的に取り組む生徒が多い一方で、日本語特有のフラットな発音になってしまう生徒も多い。また不安で会話練習もワークシートを見ながら行う生徒も見受けられる。

○書くことによる自己表現も意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒の差が目立ってきた。

<2年> 【表現の力（話す・書く）】

○教科書にある英文や、決まりきった定型文については、前向きに取り組む生徒が多い。一方で、初めて見る英文や自分で考える課題については、あまり意欲的に取り組めない様子が見られる。

<3年> 【表現の力（話す・書く）】

○話す活動については、非常に意欲が高い一方で、書く活動については、よくできる生徒とそうでない生徒との差が開いている。

<1年> 【表現の力（話す・書く）】

○今後も「暗記」が大切なのではなく、言葉に気持ちをのせて表現することが大切であることを授業の中で繰り返し伝え、練習を重ねていく。また、不安を取り除きながら、段階的にワークシートに頼らずに話せるよう、回数を決めて会話練習を行っていく。

○自己表現ノートの書き方の見本をあらためて配布し、再度指導することで様子を観察する。また授業の中やユニット末テストにて、基本文の定着にも力を入れる。

<2年> 【表現の力（話す・書く）】

○基本文による定着を図った後、自己表現活動へとつなげるよう授業を組み立てる。授業内での話し合い・学び合い・教え合いを通して、生徒自身で考えて英語で表現する機会を設ける。

<3年> 【表現の力（話す・書く）】

○帯活動などで行う話す活動については、非常によくできているので、同じようなイメージで書く活動を帯活動として授業内の活動に多く取り入れていく。また、フィードバックできる機会を意識的に設ける。